



七夕にむけて

梅雨の蒸し暑い季節、子どもたちは学校で楽しいプールが始まり、ご機嫌な子もいれば、少し疲れ気味な子もいます。6月は雨降りな日が多く、児童デイライトでは木工、家事体験、七夕飾り作りなど、室内での活動を主に行いました。

七夕飾り作りでは皆、きらびやかな飾りの素材に興味津々で、星空の絵、短冊、輪つなぎを作りました。特に、星型に切ったキラキラ光る折り紙を一生懸命紙に色紙に貼って星空の絵を完成させていました。どの絵も貼り方に個性があり、一枚一枚にその子らしさが出ているように感じます。

作品は室内や竹に飾り、とても涼しげな爽やかな印象となりました。蒸し暑い日が続きますが、子どもたちと一緒にいろんな活動を通して、乗り越えられたらと思います。

デイサービス通信



愛知を中心に、若者の就職支援を行っている『NPO法人エンド・ゴール』から、二人の若者がボランティアに訪れました。就活のインターンシップとして、デイサービスまごころのボランティア体験を希望され、半日過ごしてもらいました。

その日は『エンド・ゴール』の職員二人も一緒になって、「七夕の笹飾り」を制作しました。いろんなアイデアを貰って、輪つなぎや鶴、やっこさん等折り紙で作りました。Tさんはボランティアに来たOさんの名前を覚えて、盛んに「Oさん・・・」と気軽に呼んでみえました。世代の違う若者との交流も利用者さんにとって刺激にもなり、頑張る原動力にもなる気がします。

7月23日から始まる、『一宮七夕まつり』の市民が飾る七夕コンクールに、今年も出品します。デイサービスの利用者さんにもたくさんお手伝いしていただきました。ぜひご覧ください！



ボランティアさんと笹飾り作り・・・



心っけづれ



子どもと関わって

子どもと遊ぶのが好きで、江南市で小学生をキャンプに連れて行くボランティアグループをつくり毎年8月のお盆後に30名の子ども達を連れ山や海に出かけます。

早いもので28回を数えます。28回の内はじめた頃は参加者も男子がほとんどで、キャンプと言うと男子がやるものというイメージがありましたが、アウトドアブームが訪れ5回を数えた頃から次第に女子が増え始め、参加者30名定員の内、数名が男子という時代が長く続き、ここ数年前からようやく男子の参加者が増えてきました。

テント張りから場所取り、マキ割りから火おこしとあらゆる場面で女子が中心で、男子も人数には勝てないようです。子どもの自由時間の過ごし方、遊び方も年代で変わっていて、始めた当初は、「鬼ごっこ」や「だるまさんが転んだ」のような外での遊びを友達同士でしていました。ゲーム機が流行り出したころから、ゲーム機をこっそり家から持って来て、黙々とやっているということもあり、ゲーム機を持ち込み禁止にしてからは、カードゲーム(ウノ、トランプ)などに変わりました。外遊びをだんだんしなくなった時期もしばらく続きましたが、ここ数年前からまた、外遊びをする子どもの数も戻りつつあります。

石ころを探して、何をするのか見ているとおはじきのようなことをしてみたり、鬼ごっこで盛り上がりたりしています。子どもも、時代の影響、親の育った環境に左右されますが、子ども自体なんら変わっていないと思います。協力会員 田中 充之



ヘルパーだより

NO. 38

平成 23 年 3 月から週に一度、生活ごみの分別とその出し方、部屋の片付けと掃除など、障害福祉サービスによる 47 歳の A 子さんの支援が始まった。

一緒に片付けを行い、ある程度の目安が出来るまで数ヶ月を要したが本人の努力と部屋がきれいになったことの感動は大きく、やればできるという思いを強く意識されたようであった。

長男さんの結婚というめでたい事で、当時中学生の三男さんとの二人暮らしになった A 子さん。対人恐怖症で一人での外出ができないため、近くのスーパーへの生活必需品の買出しの外出支援が始まった。買い物と同じく、路線バスやタクシーにも乗れないため、月に一度の心療内科の受診は乗降介助の利用で支援している。

心の病を持ちながらも、母親として子供をちゃんと見ている目、子供を大事にする心を第一に考えておられる優しいお母さんである。

支援が始まった 4 年前に比べると、随分と精神的な安定は見られるものの、まだ心の不安を抱えての毎日であるが「幸せな気持ちで生活が続くことが夢」と話される。ヘルパーとして、一日も早くその日が来ることを願って支援している。昨日はともあれ 今日に感謝し 明日を信じて・・・



利用者さんからのことば・・・

今少しずつ、笑顔が増えて来ている毎日を過ごさせて頂いています。あの頃は自分の病気が受け入れられずに、暗い闇の中の生活でした。そんな時に、手を差し伸べてくださったヘルパーが明るい道へ導いてくださいました。まだまだ、ご面倒をかけていますが、一緒に歩んでくださる事に感謝する毎日です。ありがとうございます。

